



准教授 高橋 浩伸 (Hironobu TAKAHASHI)

- 専門分野：建築設計、住空間計画学
 - 研究課題：美的空間創造のための基礎的研究、空間認知環境評価に関する研究
住空間のデザイン手法に関する研究、住空間の快適な光環境に関する研究
 - 授業科目：住空間計画学、比較住文化論、居住環境デザイン実習、共生住文化論など
 - 学 位：博士（工学・九州大学）
 - E-mail：takahashi@pu-kumamoto.ac.jp
- 人はどのように空間を認知し評価しているのかを知り、「感動」や「幸福感」を抱けるような空間を創造するための設計デザイン手法や、デザインの在り方を学びます。



准教授 佐藤 哲 (Satoshi SATO)

- 専門分野：建築計画、福祉住環境、福祉のまちづくり
 - 研究課題：高齢者の住まいと情報提供の在り方に関する研究、空き家の利活用に関する研究、地域包括ケアに関する研究、住教育教材の開発に関する研究
 - 授業科目：建築計画学、福祉住環境原論、居住環境デザイン実習など
 - 学 位：博士（工学・横浜国立大学）
 - E-mail：satoshi-s@pu-kumamoto.ac.jp
- 建築によって生み出される空間や環境の分析・評価を通して、建築設計を支える知見や条件を提示・提案し、人間の行動や心理に適した建物を計画するための手法を学びます。



教授 辻原 万規彦 (Makihiko TSUJIHARA)

- 専門分野：建築環境工学、都市デザイン、建築史
 - 研究課題：小学校の教室の温熱環境と住育プログラム、製糖業や電気化学工業の工場と社宅街の建設過程、天草市に残る近代建築物の保存と活用
 - 授業科目：環境調整工学、建築環境工学Ⅰ・Ⅱ、居住環境調整工学実験など
 - 学 位：博士（工学・京都大学）
 - E-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp
 - w e b：http://pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/
- 各地の気候風土の違いを考慮して、豊かな自然を有効に利用したこれからの地域の環境調整のあり方とその方針について学びます。



准教授 田中 昭雄 (Akio TANAKA)

- 専門分野：建築設備工学、建築環境工学
 - 研究課題：建築設備の環境負荷、住宅エネルギー消費の地域性と経年変化、太陽電池の発電特性、地域の低炭素化
 - 授業科目：環境設備システム学、環境設備学、住まいと地域環境 など
 - 学 位：博士（工学・熊本大学）
 - E-mail：a-tanaka@pu-kumamoto.ac.jp
- 建築内の快適さの追求は、「都市環境」や「自然環境」に悪影響を及ぼします。その事を理解した上で、人や環境に優しい建築環境工学の知識を学びます。



教授 北原 昭男 (Akio KITAHARA)

- 専門分野：木質構造学、建築耐震構造
 - 研究課題：木造軸組構法建物の耐震性能評価、伝統的木造建物の構造特性の解明、都市建築群の地震被害推定と都市地震防災
 - 授業科目：木質構造学、居住空間材料学、居住間構造材料実験、建築構法など
 - 学 位：博士（工学・京都大学）
 - E-mail：kitahara@pu-kumamoto.ac.jp
- 環境に優しい居住空間の構築を目指して、木造建物を中心に構造物の構築方法、建築材料の利用法、建物の耐震安全性などについて学びます。



教授 李 麗 (Li LI)

- 専門分野：建築構造学
 - 研究課題：木・鋼ハイブリッド耐力壁、木と鋼の環境共生住宅、鋼・コンクリート合成構造に関する研究
 - 授業科目：静定構造力学、不静定構造力学、鉄筋コンクリート構造学など
 - 学 位：博士（工学・九州大学）
 - E-mail：lili@pu-kumamoto.ac.jp
- 美しさと安全性を両立させる空間造形を可能にする力学や、要求性能に相応しい構造材料の組み合わせ等に関する理論と技術を学びます。



教授 柴田 祐 (Yu SHIBATA)

- 専門分野：地域計画学、景観
 - 研究課題：持続可能な農山漁村地域に関する研究、都市と農村の共生に関する研究
熊本地震からの農村集落の復興に関する研究
 - 授業科目：農山村地域計画学、地域景観計画学、地域計画論、居住環境デザイン実習など
 - 学 位：博士（工学・大阪大学）
 - E-mail：shibatayu@pu-kumamoto.ac.jp
- 人口減少社会における持続可能な地域づくりを進めるために必要な、地域環境の読み取り方、地域計画の理論や技術、法制度を現場から学びます。



准教授 鄭 一止 (Ilji CHEONG)

- 専門分野：都市計画、まちづくり
 - 研究課題：地方都市におけるスプロール化とスポンジ化に関する研究、立地適正化計画制度など都市政策に関する研究、空き家や空地进行を活かした空地デザイン、社会遺産を活かしたアジア各都市のまちづくりに関する研究など
 - 授業科目：比較都市文化論、都市計画、都市居住政策学など
 - 学 位：博士（工学・東京大学）
 - E-mail：ilji1980@pu-kumamoto.ac.jp
- 縮小時代の持続可能な都市づくりを目指しもったいない遊休空間の実態と都市の使いこなし方について都市政策とまちづくり手法論から学びます。

卒業後の進路

卒業後の主な就職先は、ゼネコン、サブコン、住宅メーカー、一般企業、公務員など多岐に渡ります。また、熊本県立大学環境共生学研究所のほか、他大学への大学院へ進学する者もいます。

平成 29 年 4 月 1 日現在

就職 [ゼネコン・サブコン]	就職 [住宅メーカー]	就職 [その他]
大成建設 株式会社	積水ハウス 株式会社	ＴＯＴＯ 株式会社
五洋建設 株式会社	ミサワホーム九州 株式会社	株式会社 イトーキ
株式会社 銭高組	住友林業 株式会社	株式会社 ＬＩＸＩＬ
株式会社 フジタ	大和ハウス工業 株式会社	コイズミ照明 株式会社
三機工業 株式会社	セキスイハイム九州 株式会社	玉野総合コンサルタント株式会社
新菱冷熱 株式会社	アイ・ウッドダイワ 株式会社	熊本県庁
穴吹興産 株式会社	新産住拓 株式会社	熊本市役所
株式会社 岩永組	タマホーム 株式会社	山鹿市役所
株式会社 富坂建設 など	株式会社 アネシス	日本放送協会
	株式会社 エスケーホーム	株式会社 熊本銀行
	株式会社 シアーズホーム など	日本郵便 株式会社 など

進学 [熊本県内]	進学 [九州圏内]	進学 [その他]
熊本県立大学大学院	九州大学大学院	奈良女子大学大学院
熊本大学大学院	九州工業大学大学院	兵庫県立大学大学院
	鹿児島大学大学院	横浜国立大学大学院
		東京芸術大学大学院
		東京工業大学大学院

居住環境学科の入試概要

熊本県立大学は、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに、豊かな教養を備え、21世紀の地域社会ひいては国際社会の発展に貢献できる、有為で創造性豊かな人材の育成に全力を注いでいます。

平成 29 年 4 月 1 日現在

	実施日	定員	出願資格	試験内容
自己推薦型入試	9月30日 10月1日	4名	特になし	プレゼンテーションと面接
特別選抜入試（推薦入試）	12月3日	4名	学校長の推薦 県内生のみ	小論文と面接
一般入試・前期	2次試験 2月25日	20名	特になし	センター試験（900点） 5教科7科目 2次試験（400点） 英語、 物理・生物・化学から1科目
一般入試・後期	2次試験 3月12日	12名	特になし	センター試験（900点） 5教科7科目 2次試験（400点） 小論文

お問合せ先

公立大学法人

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

環境共生学部 居住環境学科

〒862-8502
熊本市東区月出3丁目1番100号
代表電話：096-383-2929
FAX：096-384-6765
http://www.pu-kumamoto.ac.jp



熊本地震からの復興支援に学生・教員が取り組んでいます



建築・地域＋エコロジー

＝

居住環境学科

居住環境学科はこんな人を求めています

- ・図面や絵、デザインが好き！
- ・地震に強く美しい木造建築をつくってみたい！
- ・自然を利用し、人の心と体にやさしい環境をつくる技術を開発したい！
- ・多くの人が住み、「にぎわい」と「楽しさ」あふれる「まち」をつくりたい！
- ・ユニバーサルデザインの建築・まちづくりを目指したい！
- ・さまざまな「すまい」の歴史と未来に興味がある！
- ・美しい農山村の風景を未来に残したい…！

そして人に興味をもち、どこにでも行って何でも見てやろう！

そんな意欲をもった皆さんを大いに歓迎します。

Thanks

70th

公立大学法人
熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto
環境共生学部 居住環境学科



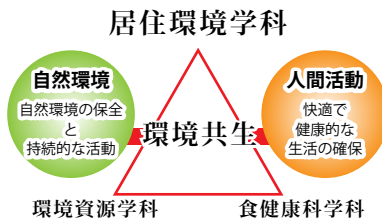
居住環境学科の教育の特色

他大学の「建築学科」と異なる内容

◎自然学を学んだ上で、建築学を学ぶカリキュラム

本学科は、自然環境と共生した居住環境の創造を目指しています。

それにはまず、環境学の学習が重要です。そこで、学部共通科目の「現代生活と環境問題」「地球環境を考える」「食と環境」の他、様々な科目が選択できます。自然環境への認識を深めながら、居住環境のあり方を考えることができます。



◎木と福祉の文化を学ぶ

自然と人にやさしい木の文化と利用を重視しています。特に、従来の建築学科にはない科目「木質構造学」を設け、木の利点と活用を考えています。また「福祉住環境原論」などの科目を設け、福祉の観点からも、共生社会を考えた居住環境のあり方を追求しています。



少人数教育とユニークな科目構成

◎少人数（1学年約40名）での、きめ細やかな教育

1学年約40名の学生一人一人の「顔」をみて、それぞれの個性に合わせた教育を行っています。特に、数多く設けられた実験・演習・実習で効果をあげています。

◎目標とする進路に合わせて選択可能な、多様な履修モデル

「一級建築士の受験資格」を目指す履修モデルから「環境計画コンサルタント」「構造設計」「設備設計」更には「行政機関」へ進むための履修モデルまで、各人の適性と志望に応じた選択ができる科目構成をとっています。また、大学院博士前期課程（修士）・後期課程（博士）へ進学し、専門性を深めることもできます。

実体験を重視した教育

◎実験・演習・実習などの「体験教育」の重視

◎様々なフィールドワークの実施

講義で得た知識を確認し、自ら考える力を高めるための実験・演習・実習を数多く設けています。



高度で充実した設備・装置

◎高度な木質構造に関する実験装置を備えた実験棟

◎任意の温度・湿度を設定・制御し、様々な実験ができる人工気候室

◎衛星写真や航空写真から住宅地図までを扱える環境画像システム室

◎学科専用の製図室に、ひとり1台の製図台

◎先端設備を導入した学科専用のPC室で行われる、充実したCAD教育

従来の建築学科にはない独自の教育を進めるため、高水準の機器・設備を導入しています。学生は1年次から、他大学の大学院生が用いるような設備を利用して教育を受けています。

建築士の受験資格

他大学の建築学科と同様に、卒業後2年間の実務経験を経て、一級建築士の受験資格を得ることができます。

また、卒業後実務経験なしで、二級建築士の受験ができます。



- プレゼナール ■外国語 ■健康スポーツ科学 ■人間と文化の理解 ■国際理解 ■地域理解 ■現代の科学技術と環境 ■現代社会の理解 ■情報科学 ■キャリアデザイン

教養科目群

- 現代生活と環境問題 ■居住環境を創る
- 地球環境を考える ■食と環境
- フィールドワーク

導入科目

…導入科目とは？

居住環境の専門分野に入る前の大切な基礎として、「環境共生に関わる自然や文化」を学びます。

■環境共生総合演習

ゼミ形式で専門分野の理解を深め、環境共生と各専門分野との係わり合いについて理解します。

- 数学Ⅰ ■数学Ⅱ
- 物理Ⅰ ■物理Ⅱ

■図学

- 居住環境デザイン実習Ⅰ
- 居住環境デザイン実習Ⅱ

居住環境デザイン実習とは？

快適な居住空間などを創造するための建築設計を学びます。具体的には建築製図法や、図面の描き方、コンセプト及びプランニングの方法などのデザイン手法を習得します。



■CAD実習Ⅰ

CADに関する基礎知識及び住居設計におけるCADの役割等を学ぶとともに、基本的な機能と操作方法を学習します。

■住空間計画学

住空間の基礎的な知見をベースにして、住空間を創造し設計する、具体的な技術的方法論を学びます。

■インテリアデザイン論

住空間を豊かに美しく創造するために、照明計画、彩色計画を含めたインテリアデザインの基礎理論と手法を学びます。

■建築環境工学Ⅰ

居住環境を調整するために不可欠な、熱環境、空気環境、光環境、音環境の基本理論や現象を、簡単な演習問題を交えながら理解します。

■木質構造学

木造・木質構造による建築物に関する興味を深め、その基本的な構法・構造的な特徴について理解します。

■地域計画論

地域資源や人々の営みを基礎にしながら、持続可能な地域をどのように実現していくのか、国内外の事例を交えて学びます。

■建築計画学

■比較住文化論

■建築環境工学Ⅱ

■環境設備学

■居住空間材料学

■静定構造力学

■静定構造力学演習

■不静定構造力学

■不静定構造力学演習

■比較都市文化論

■居住環境デザイン実習Ⅲ

■居住環境デザイン実習Ⅳ

■木質材料活用論

■森林生態学

■海洋生態学

■応用情報処理実習

基礎科目

■福祉住環境原論

高齢者・障がい者に対応した住まいや地域（まち）を計画する上で基本となる福祉住環境整備のあり方や手法について学びます。

■環境設備システム学

建築物が快適で省エネな環境空間を形成・保持するために具備すべき設備やシステムについて学び、生活文化としての建築物としての意味を理解します。

■鉄筋コンクリート構造学

鉄筋コンクリート構造の設計法に関する基本事項について学び、さらに最も一般的な構造方法であるラーメン構造の柱、梁部材等の設計方法を学びます。

■農山村域計画学

農山村の重要な役割、環境共生の仕組みを深く理解するとともに、それらを将来にわたって維持・発展させるための方向性を考えます。

■地域景観計画学

景観の概念や景観構造の把握と評価方法、日々の暮らしとの関わりなどを具体的な事例を通して学び、景観形成のあり方について考えます。

■インテリアデザイン実習

■木質デザイン論

■環境設備システム学演習

■居住環境調整工学実験

■環境調整工学

■居住空間構造・材料実験

■鉄骨構造学

■都市計画

■都市居住政策学

■居住環境デザイン実習Ⅴ

■居住環境デザイン実習Ⅵ

■CAD実習Ⅱ

■建築施工学

■大気環境学

■環境関連法規

■環境経済学

■地方自治論

学部共通科目

学科専門科目

■卒業研究（論文・設計）

4年間の総まとめとして、これまでに学んだ専門知識および技術を活用して各自が選択あるいは提案した研究テーマにおいて、研究を計画、遂行し、考察を加えて成果を発表します。

■環境防災・安全工学

■建築法規

■公共政策論



4